



ナレーション

『京都ざらい』を執筆された井上章一さん

井上さん

心のややひ弱な人がこの街に集って

ナレーション

いけずステッカーの女将として話題の大西里枝さん

大西さん

唯一残ったのがいけずという文化なんじゃないかな

ナレーション

そして松井孝治京都市長が京都への想いを熱く語り
「京都の魅力」を広く発信するトーク番組

松井市長

常連の連なりみたいなものがその街の文化の力やと思ってる

井上さん

一番京都に対する敬意がない街は大阪

ナレーション

今からはじまりおすえ…

海平アナ

皆さんこんばんは。本日の司会を務めさせていただきます海平和です。

それでは、出演者の皆様をご紹介させていただきます。国際日本文化研究センター所長の井上章一さん。大西常商店 4 代目女将の大西里枝さん。そして松井孝治京都市長です。よろしくお願いいたします。

今日はですね京都の好きなところ、また嫌いなところ…はないかもしれませんが。そういったところをですね大いに語り合っていたきたいな、というふうに思っております。

さて松井市長、今回はですね、松井市長が今一番会いたい、お話を伺いたいお二人に出演をお願いされたというふうに伺っているんですけども。

松井市長

それぞれお会いもちろんしてるんですが、このお二人の対決が見てみたい。私は自分安全サイドにおいて行司役…

海平アナ

井上さんについてはどういった印象？

松井市長

いやもうそれは大先輩で尊敬する先生でありまして。京都についてこの番組の表題はどうなるのかわかりませんが、今日のあの対談鼎談の結果を受けて表題が決まるのかもしれませんが、本当は京都のことは好きで好きで仕方ないんじゃないかな、という。愛情の裏返しでいろいろ言ってくれてはるのかな、というふうに思ってるので、今日は番組でそこら辺が明らかになったらいいかなと思って。

で、いけず女将はこれもほんまはいい人なんやけど、いけずを装ってはるのかなと。それから、ほんまは二人は心情心根は近いんじゃないかなと。

仮説ですのでそれが明らかになる番組ということで、よろしくお願いします。

海平アナ

今の市長のお話を聞かれて、まず、井上さんいかがでしょうか？

井上さん

今そういうふうにおっしゃってくださったんだけど、事前にお互い毒を吐きあって競い合ってくださいと仰っておられました。

松井市長

いやいやいやいや…

井上さん

おっしゃいましたよね。つまり、私達に毒を吐かせて、ご自身は比べていい人やなという印象を

松井市長

ばれたか…

井上さん

伝えようとなさっておられるように受け取りました。

松井市長

これがもう井上先生節なんですよ。これがね。

海平アナ

今日、どうなっていくんでしょうね。
大西さんはどのように聞かれていましたか？

大西さん

そうですね、もう私ほんまはええ人みたいなね、
感じで言っていましたけどね。

どないなんでしょうね。私達そうですね…色んな
SNS を通じていろいろ市長が書いてあることも拝見
してるんですけどもね、やっぱり毒を吐けと言われ
るとちょっと私もちょっとね、直前に言ってはしまし
たしね。なんかちょっと今までそんなこと言うてはら
へんかったのに、開始5秒前ぐらいに言わはったんで、
ちょっと私もご期待に沿えるように頑張ってやらせ
ていただきます。

松井市長

おおきに。

海平アナ

市長もう攻撃が始まってますね。

松井市長

攻撃相手を私にしないでください。

大西さん

つつい…

海平アナ

それでは、早速今日のトークに入っていきたいと思
います。



ナレーション

まず1つ目のトークテーマ

『洛中にあらずんば京都にあらず？』

海平アナ

はい、ドキッとするタイトルなんですけれども。井
上さんの著者である「京都ざらい」でも大きな注目を
集めました洛中洛外の線引きなんですけど、結構曖昧な
ところもあるのかなんていうふうに思いますが。

井上さん、まずちょっと解説していただいてもいい
ですか？

井上さん

私の京都嫌いの根っこに関わるんですが。私育った
のは嵐山の北側なんですすよ。

よく隣町の亀岡に遊びに行くことはあったんです。
その頃の幼い私に嵐山と亀岡を比べて、どっちが都会
的だどっちがいいとこだという意識はなかったわけ
です。だけど京都の人たちと街中の人たちと出会うよ
うになると、私も汚染されるんですよ。それで育っ
た土地によって人を区分けするような邪念のなかっ

た私は、今や亀岡を下に見るような、嫌な人間になっ
てしまっているわけです。これに対する自己嫌悪が
『京都嫌い』です。

海平アナ

そこから始まったと。

井上さん

ただタイトル自体はね、京都ってみんなに好き好き
って言われる街じゃないですか。これに嫌いっていう
言葉をぶつけるとね、面白い化学反応をタイトルが持
つんじゃないかというそんな打算はありました

例えば三島由紀夫さんに『仮面の告白』ってあるで
しょ。仮面って告白普通しないじゃないですか。それ
をくっつけることで味わい深いタイトルになるわけ
ですよ。

海平アナ

その洛中洛外の線引きで言いますと、都会・真ん中
を知っているいろいろな感じられるようになったという。

井上さん

そうですね。ただね、あの本を書いてね、僕にとっ
て印象的だったのは西七条の人に言われたんですよ。
「井上さんあんたは気持ちが楽や」と。

「嵯峨はどう考えても洛外や」と。
「西七条はかろうじて御土居の内側なので、形式的に
は洛中といえる。だけど、室町通の旦那たちが集まる
ところで私も洛中だと言わん。井上さん、あなたは
洛外だから、こういう自意識の虜になることはない
でしょう。あなたの方が精神衛生的にはいいんです」
と。そう言われました。

海平アナ

市長、すごく笑って聞かれましたけれども。

松井市長

いえいえ。私は田の字エリアの生まれ育ちなんです
けどね、せやけど、なんかほんまに意味があんのかな
って。いうのは私の母親って明石市大久保町の出身で
ね。考えてみたら田の字のエリア、先輩言わはる洛中
のエリアにもう全然外側から、それこそ京都府でもな
いところから嫁いできて、古い商売手伝って、手伝っ
て女将やって苦労してきた人間なんで。

せやけど、僕らはしみついた田の字のエリアに住ん
だ人間は何かあの感覚はありますけど、あんまり言う
てもねと。近くでいろんな御商売されてる方も外から
来てる人ものすごい多いしね。

何ていうか、井上先輩もそうやけど、それほんまに
言うてるのかある種のギャグとして言うてはるのか。
そこはほんまの人もいはると思います。正直言うとな、

そやけどなんちゅうか、挨拶代わりに軽いジャブって
いうかネタみたいに使こてはる人の方が多いんちゃ
うかな。

井上さん

ただ、挨拶代わりに見下された側の気持ちをあんまり…。

松井市長

いやいや、それは私見下してませんから。見下されたことは、ひょっとしたら上京の人なんか「下の方やね」とか言われるわけですよ、はい。その下の方やねって言われると僕らは、僕らはどっちかという感覚から言うとか下町ダウンタウンなんですよ。

中京を言うても中京ってもう新しい区なんでね。上京の人から言ったら「上京か下京しかなかったやろ」っていう上と下やという感じやからね。

井上さん

京都の道の名前を覚える童歌にね、「まるたけえびすにおしおいけ」ってあるじゃないですか。あれ御所から北側を全然範疇に入れてないですよ。

松井市長

そやけど、御所から北側の人は自分たちは、本当の京都やって思ってますよ。

井上さん

でもあの歌の心に、御所から北側は別の街やって。

松井市長

別というかね。

海平アナ

ちょっとすごい怖い番組だと思って聞かせてもらっていたんですけど、大西さん。

松井市長

いけず女将がもっときついこと言わしますから。

大西さん

いやいや、そのフリ辞めてもらって！いやでも中京区って言ったらね、やっぱりちょっと上の方っていうイメージで。こちらがもう人が生きられるギリギリのラインなので。私達の松原通はですね。

松井市長

またそういう。五条の人はどうなるんですか。

井上さん

元々松原通が五条通りやったんじゃない？

大西さん

そうですそうです。はい。なんか元々そういうふうな通りでもうこっちから本当に松の林あって。なかなか人が住めないエリアだったという本当の話らしいです。知りませんけどよう。

海平アナ

出ましたね。でも、この洛中洛外っていうのは、よくやっぱ今でもいろいろ論争にもね、なるほど出てくる話だと思うんですけども。大西さんも常々感じられてますか？

大西さん

そうですね。やっぱり私はね、一応洛中の中ではあるんですが。本当にギリギリというか、このこの辺この辺みたいな感じなのでですね。そうですね、やっぱり言われることも中途半端なエリアでもあるかなっていうふうには思ってるので、なかなかそうですね。

それぞれの人たちがそれぞれの生きる場所で何か何かを持っているというかわかれた記憶があるとか。

井上さん

西七条に比べたら。

松井市長

すぐそういう特定の地名を出して。

井上さん

この笑い声で全てが分かりますよね。

大西さん

そんな事は。そんなそんな。笑い声、笑い声で判別されてもそんなことはございません。

なかなかね難しいなと思いますけど、皆さんそれぞれ何か思いを持って自分の場所で生きてらっしゃるんだろうなっていうふうに思いますけどね。

松井市長

京都は1つ1つなんですよ、やっぱりね。1つ1つの町に個性があるし、上とか下とかでなくてね。それぞれがいじりあってるっていう、隣とはちゃうでっていう。

大西さん

(井上さんが)「え？」みたいな感じでした。

海平アナ

言いたいことがまだあった。

井上さん

そういうことにしておきましょうよ。

大西さん

先輩、先輩が。

松井市長

せやけど、前も井上先輩に言うたんですけど、和歌とかね大体あれですよ。宇治とか嵯峨とかそういうところの貴族の別荘地で和歌は詠まれてて、私が生まれ育ったところなんか詠んだ和歌とか僕はあんまりよく知らないです。

井上さん

そうなんです。私もだから若い頃は、自分の育ったところをいい場所だと思ってたんですよ。ところが街の人たちと付き合うようになると違うんだな…。

松井市長

ね、どうですか？こんなこと言われて。

大西さん

そうですね、いやそうじゃないんですけど、でもやっぱりやっぱ歌とかが残ってるところって、わざわざ行くからそこで歌を詠むのであって。多分中では自分たちが当然だよみたいな。

そんな真顔で見といてくださいよ！そんな真顔でこんな見つめられたら！

井上さん

仰る通りだと思う。

大西さん

それに何の意図もないですけど行く、わざわざ行っただからこそ自分の気持ちが高ぶって歌が出ちゃったよみたいな世界線であるんじゃないかなとは思いますがね。

松井市長

どうしましょう、これ。

海平アナ

まとめ、市長からまとめ頂いてもいいんですか

松井市長

もうまとめられません。私はたださっきの洛中洛外の話で言うとね、昔は御土居っていう話を井上先生から出ましたけど、やっぱ僕らが行政でやってると番組小学校ってありましたよね。

あれは元々上京と下京中京はなかった時代の話ですが、64の番組小学校ってのは地域の人たちがこの町内で作った小学校なんで、そういう小学校を作ったエリアの人たちはやっぱり独特の思いがあることは事実です。

その学校っていうのは自分らが財産出した自分らが作ったんやっていう。それこそ学生発布の3年前にねできてるんですよ。だからそこら辺のエリアの人たちはやっぱ学校に対する思い入れが違っていたりするのは事実ですね。

それが洛中洛外かどうかはまた別としてね。

海平アナ

すぐく学区ごとに意識がいろいろ本当に違ってあるっていうのは、結構その京都ならではの感覚ですかね？

井上さん

そうですね。ただある程度日本文化でもあると思うんだけど、選挙の投票って小学校によく行くじゃないですか。これ諸外国にあんまりないですよ。

学校がいろんなものを凝集してるっていう度合いは日本が強いような気がします。

松井市長

その中でも特にさっきの番組小学校エリアの人たちは、やっぱり財産、かまど金で財産拠出して学校を作ったっていう思いがあるから、その特に旧学区に対する思いが強いんですよ。

統合になってるような、いくつもの学校が統合されたその学区単位じゃなくて、元の学区が未だにものすごく意識としては強いんですね。

海平アナ

いやでもね、今お話伺ってるとそういった根付いた意識っていうのは、今も続いているのだからっていうふうに私は感じさせてもらったんですけども、いかがでしょう？

こういうその洛中洛外意識っていうのをなくしていくべきなんでしょうか？それとも京都の個性と捉えるべきなんでしょうか？

大西さん

やっぱりなくならそうとしてなくなるものでもないと思うんですわね。先ほど仰られたような番組小学校みたいな、私有倫学区ですけども、学区ごとにその思いがあって、その人たちが「区民運動会って下京区でやるんかと思ってた」って結構洛外の人。

松井市長

そうそう！

大西さん

「ええ！」みたいな。「そんなやるわけないやん、有倫ここでやるんよ」みたいなね。そういうなんでしょうね。住んでる人たちが自分たちの運動会作ろう、楽し

んでやれる場所を作ろうとか、夏祭りとかそういう場所があってその意識の意識がある中で、ちょっと少しずつ洛中洛外の意識にちょっと紐づいていってしまってるだけなんじゃないかなっていうふうに思いますけど。

なかなかなくなるかって言ったらそうでもないのかなというふうに思いますね

松井市長

それは伝統というものはねいろんな面がありますから、それはあの簡単になくせるもんでもないし、全てがそれは意識が悪いわけでもないし、ただまあもう普通の京都人はそれぞれが出身の学区とかが違ってても、兵庫県から来はっても東京から来はっても馴染んでるし、そうやってなんやかんや言いながらいじりながら馴染んできてるのが僕は京都の文化やし、それが本当に排外的になってるなら僕は大问题だけど、なってへんと僕は思うしもっともとならへんようになってくると僕は思いますね。

これはもう特に、僕なんかがそれをそれこそ京都広く京都中回ってていろんな仕事をさせていただいて、「あんた洛中の人やろ田の字の人やろ」って言われることはありますけど、いやいやあの、話をする中で「いやそやけどわかってくれてるよな」とか、せやけどっていう会話が繋がって行って「あんたはどこの人やな」とかいうのはこれはある種の京都人のアイデンティティですよ。「お江戸から来はったよな」「そやけどおもしろいとか」「そやけどその割に料理の味付け薄いな」とかええんちゃいますのん。いろいろあって。

井上さん

私もね、仰る通りやと思うそれは。深刻な差別ってあるじゃないですかヘイトに繋がるような。これはやっぱほんまによくないと思う。だけど私達の中にも上下っていう言い方はよくないんだけど、なんか区分けして面白がりたいたいという気持ちはあるわけですよ。

だけどそれを深刻な差別の方へ向けずに「嵯峨はどうした」とか「室町はどうした」とかいうあたりでギャグにしておく方が世の中は無難で、ある程度発散もできるしけれども深刻な差別には繋がらないという点で。

松井市長

だって阪神ファンと巨人ファンもどっちが上や下やって言うてますやん。

大西さん

たしかに。

井上さん

阪神ファンと巨人ファンは自分で選べるんですよ。チームは。

松井市長

せやけどみんな引っ越しもしてはるし、それは。

井上さん

いや、引っ越しだって自分で選べるじゃないですか。選べきれない人もいるとは思いますが、だからあの、それでいいんですよ。

嫌な差別をなくすためにも、お互いにちょっとずつからかい合うっていうのはあっていいんじゃないでしょうか。

松井市長

ほら、いい人じゃないですか、やっぱ先輩。



ナレーション

続いて二つ目のトークテーマはこちらです
『いけずは京都の文化？』

海平アナ

ということなんですけれども、大西さんがね、女将に扮したいけずステッカー。

大西さん

ご覧いただいてる通りの、裏と表になっていて、表は京都人の本音を書いてあって、表に京都人の建前が書いてあって、裏に本音を書いてあるっちゃうですね。

海平アナ

どういったところから始まって？

大西さん

私が、うちの会社とか私が作ってるわけではなくて、大阪のね、会社さんが面白いことを考えはって、企画しはったやつに私がモデル出演させていただいたら、ちょっと思った以上に話題になって。

奇しくもいけず女将という称号をほしいままにしまったというかわいそうないけずモンスターという感じですね。

海平アナ

そのお話があったときっていうのは、もうすぐに面白いやんっていう感じだったんですか？

井上さん

考えたのは大阪の人やって言うてはるんやけど、今の質問は「ほんまはあんたも面白かったんやろ」って。

大西さん

パッて見張りましたもんね。「言うてはるえ」言うて。「これ、いけず言われてるねんで」って。「ほんまはあんたも面白がってはんねやろ」って。

井上さん

っていう質問ですよ？

大西さん

すごいスピードで振り向いてくれはったから良かった。

松井市長

海平さん、京都人？

海平アナ

あ、ハイ、洛外です。

松井市長

京都人、京都人でしょ！なんでそこで京都人って聞いているのに、洛外とかいう自分で壁を作るんですよ。

海平アナ

はい、一応はい。

松井市長

ですから、京都人ですからいかがでしょう。

大西さん

安心してお話しますね。そうですね面白いなと思いました。結構京都って観光都市だと思うんですけども、本当にずっと観光というところに対してすごい取り組んでいらっしゃった歴史が 1930 年ぐらいから観光課があるみたいな観光の部署があるみたいな。本当に日本で先立って観光というところに取り組んできた都市だと思うんですけど、だからこそ京都の観光資源ってもう掘り尽くされてきたと私は思ってたんですよ。全てのものが今観光資源として世の中に出てってる中で、唯一残ったのがこのいけずという文化なんじゃないかなっていうふうには思いました。

松井市長

それを発見しはったんは井上先生じゃないですか。

大西さん

そうそうだからあの

松井市長

これは面白いと。

大西さん

だからなんか今日怒られへんかなっていう気持ちで、昨日はもう寝られずという感じでしたけれども。すいません、なんか資源をその見つけはった資源を面白おかしく使ってしまったて申し訳ないなという気持ちで…。

井上さん

京都のいけずは何か落語のネタにもなったりするので、別に昔からぶぶ漬けの話とかはよく語られてると思いますよ。

松井市長

いや、せやけど、ぶぶ漬けって私言われたこと 1 回もないですよ、人生で 64 年の人生で。

井上さん

私はねもう近所の会話で聞いたことがある。

松井市長

ええ、ほんまですか。

大西さん

すごいですね。

井上さん

「ぶぶ漬けどうぞ」「いやもう結構です」言うの。

松井市長

それ近所って嵯峨じゃないですか？

井上さん

嵯峨でもあったんですよ。今のおっしゃり方！

松井市長

いやいやだって。

井上さん

今のおっしゃり方、皆さ～ん！

松井市長

洛中の悪弊みたいに言うてはるけど聞かはったんは嵯峨でしょ？私聞いたことないですよ。

井上さん

嵯峨の分際で聞いたのか

松井市長

そんなこと言ってませんよ、そんなこと言ってません。かなんな、きついわ。

海平アナ

それでいけず文化、根が深そうですねけれども。でも、実際にそのねぶぶ漬け以外でもお三方が言われたこと、もしくは言ったことがあるいけずについて伺ってみたいと思うんですが。

大西さん

そうですね、私は結構こういうふうにいけずステッカーを機にメディアだったりとか、いろいろ出してもらったりすることが多くなったんですけど。

ある日電話かかってきて会社取引先の大奥さん、もう100年ぐらい付き合いがある商売で、大奥さんから90なんぼの大奥さんから電話かかってきて「里枝ちゃんほんまに最近は大女優やね」って言われて。「はいっ、恐っ、すんません」みたいなですね。「すいません、なんかねもう本当仕事頑張らんとあきませんね」っていう話をして切ったんですけど。ちょっとしばらく震えが止まらなかったよね、やっぱり。

松井市長

そやけど、それはほんまはいけずと違うのに、いけずの演技を上手にしてはるねって意味じゃないですか？

大西さん

絶対違いますよ、あの感じ絶対ちやいますよ！もうしょっぱな出て5秒ぐらいで「里枝ちゃん最近ほんま大女優やね」って絶対違いますよ、もう絶対違う。「お仕事頑張れ、本業やれよ」と「頑張りなさいよ」という叱咤激励も込めておっしゃっていただいたんじゃないかなと、私は思ってますけど。

松井市長

本当頑張ってはりますやん。

大西さん

ね、そう思ってるんですけどね。でもどうしても出て行くのはね、「いけずの女将」「いけず女将」門を掃いてても言われますもん。「いけず」「いけずの人やなようテレビ出てはるわ」なって。

海平アナ

そう言われることについてはどうなんですか？

大西さん

ちょっと悲しい反面美味いになって正直思ってます。でもごめんなさい、正直なところ言うと美味しいなと思っています。はい。

海平アナ

でもいけずって、こうね1言われた方も気づけるかどうかっていうのも、今なんか難しいなっていうふうにも思って聞かせてもらってました。

井上さんはさっきぶぶ漬けの話を中心に聞いたこととおっしゃってました。井上さんが実際に言われたことがあるいけずって…？

井上さん

今恐れてるのはね私は41歳から、ピアノに取り組み始めたんですよ。そこそこ腕前は獲得しているという自負心はあるんですが、やっぱり近くの人に「ピアノ上手ですね」って言われたときにやっぱり心が凍りますね。どう返事しよ、褒めてくださってる部分は2割ぐらいで多分8割ぐらいはやかましいと仰ってるんやろうなと思うので「練習時間には気をつけます」というような返事をねしようと心がけております。

海平アナ

それが8割ぐらいはうるさいって言われてるのかなって思われるってことはやっぱりそういういけずがやっぱりまだまだ多い？

井上さん

私の知人に名前は出しませんが、アフリカから来ておられる方がいてパーティーの好きな方で近所の奥さんに「いつも楽しそうですね」って言われてたんだって。しばらくしたら警察から騒音苦情が出てるっていう連絡があって、つまり「楽しそうですね」はやかましいという意味だと。

国際社会を迎えたときにこの言い回しはどうなんだっていう思いはありますけれども。言われた本人面白がってるのでね。

松井市長

そうそう、はい、それはいいですよ。

海平アナ

松井市長もご経験ありますか？

松井市長

僕あんまり経験はないですけど、よう言われることの中で自分の経験がある言葉は「考えときますわ」ですかね。「考えときますわ」は本当に考えてくれはるわけでは必ずしもないですよ。「考えときますわ」言うのは婉曲な断り方とかね、それは人を傷つけないっていうか京都の町の人間と人間の関係とか、庶民といろんな支配階層の人が、京都に都やから来て支配しはりますよね。そこのギスギスしないような婉曲な言い回しはあるのかもしれない。

でも僕は「ええ時計してはりますな」なんてことは

ひょっとしたら言われたことあるのかもしれないけど、自分としてはこんな時間経ってしまったかなとかいうのを、そういうやり取りは経験はないですよ。でもあえて言えば「考えときますわ」ぐらいですかね。

井上さん

「考えときます」はね多分、霞が関でも言うてはると思います。「前向きに検討します」。

松井市長

そうそう。

井上さん

だからあれ京都人だけなじるべきではなしに

松井市長

そうですよ！

井上さん

日本語全体にそういうところはあると思います。

松井市長

高田渡さんの曲にね、名曲に『値上げ』っていう曲がありますが、「値上げは考えてません」っていうところから始まって、最後は「値上げはせざるを得ない」とか「値上げする」っていうことになっていく。なんか建前と本音みたいなのが一曲の中で変わっていくっていうね。

井上さん

そうですね

松井市長

なんかよう「引っ越ししました」という通知が来てね。お近くにおいでの際はお立ち寄りくださいって。

井上さん

日本中ですよ。

松井市長

行ったらやっぱりちょっと「ええ！」って。

井上さん

びっくりされますよね。

松井市長

それは言葉何ていうかな、一応ご挨拶文っていう感じがから。

井上さん

友達に何かをあげるときも、粗品ですとか言うじゃない。ほんまに粗末な品やったらそんなもん出せないよっていうところやけど、みんな大体粗品で理解してますよね。

これ京都だけではなしに 日本全体にあるんだと思います。何ていうのかな、あの会議でアイディアをお互いに出し合うときにつまらないアイディアですがとか言うじゃない。本気で自分の考えをつまらないと思ってるわけではなしに、装うっていうのはこれは京都が都だった時代が長いので京都によく残ってるのかもしれないけど日本語にそもそもあるんじゃないかなと思います。

海平アナ

はっきり言わないオブラートに包んで、でもそれが特に京都はっていうふうに言われることが多いですけども。だから、大西さんこれは何かいけずではないってことなんですかね、どうです？

大西さん

いけず…そうですね、どうでしょうね。

でも私も全国にあるのでよく見るのが、コンビニのトイレとかで「いつも綺麗に使っていただいてありがとうございます」って。いや今日初めて使うみたいなコンビニのトイレって。しょっちゅう行かないじゃないですか同じコンビニのトイレ。普通はもう大前提を使ってこちらで作って、いつも綺麗に使っていただいてありがとうございます、綺麗に使えよみたいなそういうのってどこにでもあるので。

それが京都というところになると、急にね、意地悪みたいなニュアンスで捉えてしまうっていうのはあるかなっていうふうに思いますけどね。

松井市長

またそれを大阪の人がいじってますよね、大体ね。

大西さん

そうそう。このいけずステッカーもそうですよ。大阪の人が面白く考えてくれはったやつがはいあの京都の中でヒットしたといういい事例だと。

松井市長

『京都ざらい』のポップで某書店書かはった人もあれ京都の人ではないとか。

井上さん

大阪の方ですね。

松井市長

「ほんまは好きなくせにって」書かはって大爆笑。

井上さん

いやこれは私の偏見かもしれないけど、日本中の人
が大体京都を好きでいてくれる中で一番京都に対す
る敬意がない街は大阪。それ自体素晴らしいこと。

よく大阪の人が高槻の人をからかうときに、「あん
たなんかもう京都やんか」っていう京都に近いことが
馬鹿にされるっていうのはやっぱ大阪ならではやと。

海平アナ

大西さん、確かにと仰ってましたけど、そうなん
ですか？

大西さん

なんかそんな感じします。ありがたい存在と思いま
すよ、みんなが好きって言うてくれはるから、やっぱ
りちょっとね、図に乗ってしまうというか。調子乗っ
てしまうところもあるけれど、大阪は必ずそこを食い
止めるというか。

松井市長

ネタにしてはるね、完全にね。僕らも似たようなも
んかもしれへんけどね、大阪に関してね。

大西さん

そうですねそうですね、同じような目線で。

井上さん

おっしゃいましたね。

松井市長

いやいやいや、ネタにするっていう意味ですよ。や
っぱり隣人同士でそういう部分あるじゃないですか。

海平アナ

今、色々いけず文化を話しましたがけども、いけず以
外に感じられている京都人特有の気質みたいなもの
って何か大西さんありますか？

大西さん

京都人特有の気質…なんでしょうね。いけず以外に
ですか？でもやっぱりいけずっていうものの自体が、受
け取り手と発信する人がちゃんと同じ土台に乗って
テーブル乗ってないと通用しないので、ある程度背景
だとかその人がおっしゃる背景とか、そういうのをち
ゃんと裏を読むというか、そういうところに心を回す
文化っていうのはあるんじゃないかなっていうふう
に思いますけど。

京都人特有の文化で私も京都あまり出たことあら
へんからあれなんで。ぜひ市長にもお伺いできたらと
思うんですけどありますか？

松井市長

なんやろね、京都人。1999年に鷲田清和先生が京都
の基本構想を書いてくれはってね。そこには例えば
「しまつする心」とかね。要するに古いものをちゃんと
使い回して大切にするとか。何でも新しいもんバン
と作ったええっちゅうもんちゃうぞ、とかあるいはワ
ーッと豪快に派手に遊ぶっていうよりはちょっと控
えめに遊ぶとか、そういう「しまつする心」なんかは
私京都特有だと思いますね。

井上さん

少し賢いような会話をしますけれども、いけずって
いう言葉自体は江戸時代からあって、必ずしも今みた
いな使い方はしていません。

例えばいけず者と言われればならず者のことです。
全体に悪い意味でいけずと言います。今のように表面
褒め言葉やけど、実はけなしてるっていうニュアンス
では使っていないですね。だからその意味では「いけ」
っていうのは、「いけしゃあしゃあ」とか「いけ好かな
い」とか、「いけ図々しい」に通じる全国区の言葉だっ
たのが今京都の褒め殺しに集中してるでしょ。

割と最近までそうではなかった事例にね、占領軍が
京都へ来たときに京都の教育関係の行政を、行政とい
うか統治を仕切らhatt方がケーズさんっていう人
やったんですよ。頭文字がEで始まる人、エドワード
ケーズかエラリーケーズかエリオットケーズかそれ
は知らんねんけれども、Eケーズさんこの人はね。

大西さん

頭文字ね。

松井市長

なんか真面目に聞いてたんですけれど。

井上さん

ほんまですよ、京都府の資料に載ってるんですこの話。
Eケーズさんは占領軍らしく、上から頭ごなしに押し
付ける人だったので京都の人たちはいけずさんいけ
ずさんと呼んだはずだっていう。

大西さん

ほんまですか。

井上さん

ほんまにそう書いてありますから。

大西さん

資料に。

井上さん

資料に。

ただね、つまり褒め殺しをする人ではないわけですよ。上から押さえつけるような人もいけずだったんですよ、そんな時代が 80 年ぐらい前まではあったんですよね。ただそこにいけずさんと「さん」をつけるあたりに京都らしさが漂うんじゃないでしょうか。

「隣のうち泥棒さん入らはったらしいえ」っていうドロボーにさんをつけ、入らはったという敬うような言い回しをする。果てはおめさん転がってはる、いや鉛筆さんコケはった、これやっばりここに私は京都。大阪でも飴ちゃんっていうのはあるんやけどね。

松井市長

まめさんって言いますね。おいもさんとかね

井上さん

言われへんやつはなんやねんと思わへん？

大西さん

逆に？

井上さん

逆に。

大西さん

逆にさんつけられないのなんだろうみたいな。

松井市長

確かに僕らは小学校のとき友達で「あいついけずや」というのは単に単に意地悪な子のことをいけずって言っていましたよね。(大西さんに) そんなね、意地悪してるわけじゃないもんね。

大西さん

してないしてない。装ってるというかビジネスいけずとか、本当はそうじゃないけれどやっていますよ、私は。

松井市長

演技が超上手なだけでね。

海平アナ

大女優ですからね。

大西さん

大女優ですから。もう取引先の大奥さんに褒められるぐらいの大女優。でもあれですねなんか先ほどお話、ちょっと私もいきなりあんまりうまく答えなかったんですけど、やっぱりなんか結構京都の人って外から来た人がちゃんと敬ってくれとかちゃんと中に

入ろうとしてくれると、すごい受け入れてくれる文化なのかなっていうふうには思っています。

例えば東京のどっかの会社が来てちゃんと町内を清掃してくれたり、ちゃんと町内会に参加して下さったら、すごくその後は仲良くなったりやったりとか、その文化っていうのは、最初はいけずかもしれんけど。中に入ったら結構みんな温かく迎えてくれる町だなんて思いますよね。

松井市長

素晴らしい。

大西さん

いいこと言ったよ！

松井市長

いいこと言った、素晴らしい！

大西さん

それいけず？大丈夫ですか？

松井市長

いや違う、昨日も僕、中村多伽さんと話して。

井上さん

そう言ってね、ただねそれってね、よそから来はった企業が街に溶け込むために涙ぐましい努力してるわけでしょ。

大西さん

町内清掃したりね。

井上さん

この涙ぐましい努力をしなあかん町だというふうに伝わってるわけやね。

松井市長

いや、せやけど先生教育にずっと携わっておられるから聞きますけど、学生さんなんかすごい受け入れているじゃないすか京都は。

昨日もね中村多伽さんっていう人と話してて。彼女東京の東村山なんかの出身で京都大学に来はって今京都でいろんなスタートアップ、どっちかって言うとインパクト系のスタートアップしてるすごい若いけど頑張ってはる人なんですけど。すごいみんなから大事にされてるし、そんな京都で何か排除するとか全くなくて、みんないろんなこと助けてくれて。

本当そういうとこ僕は京都人多いと思います。

井上さん

空き家対策いうわけでもないけれども、そういう全国から来てくれる学生さんをホームステイのような形でいろんな家を活用するような事業を始めていただったら。

松井市長

実際始まってます。

井上さん

始まってますか。本当に京都で暮らしたという実感を持って、羽ばたいていただけるんじゃないかと思います。

松井市長

なんかもう、羽ばたかはんのは何か意味があるんですか？

井上さん

いやいやいや。

松井市長

でも本当にそういうの、アーティストインレジデンスっていうのも最近増えてるし。

井上さん

言葉の意味を素直に取れへんのは京都人の。

松井市長

いやいやいや、先生が笑ってはると何か含みがあるのかなと思って。

大西さん

永遠に終わらないね、これ。



ナレーション

本日の会場となっているのが大西常商店の京町家。伝統的な数寄屋住宅としておよそ150年の歴史を誇っています。女将の大西さんにまずは坪庭を案内していただきました。

大西さん

ここが1番最初の坪庭とここが供待ちという空間になっております。カバン持ちと運転手の方が商談中寒い中外で待つというですね。

松井市長

けっこう寒いですね。

ナレーション

次におくどさんを見せていただきました。

大西さん

実は今も現役で使えるというですね、はい。でうちは火の用心の愛宕さんの札を貼りながらも、ご飯を炊く前はここに柏手うってから始めるというカタチになっております。すごく煙が上がるので上の方が高くなって火袋という空間になっておりますけれども。

井上さん

子どもの時は紙を小さく切って、パラッと散らしてもらったあの光に跳ねてね、キラキラする思い出がありましたね。

大西さん

すごい風流な遊びですね。

井上さん

風流な遊びをしていました。

ナレーション

続いて案内していただいたのは、奥にある庭です。

大西さん

ここが1番大きなお庭になっていまして、はここに水が流れる川が生まれるというですね。川が生まれると上の空気がこちら側にやってきて、自然のクーラーみたいなカタチで涼しく過ごせるよという。いかに快適に生きるかみたいなね、先生。

井上さん

「夏をもって旨とす」という風に昔から言ってるのでね、冬の何をどう考えてはったんやろう。

大西さん

そうなんですよ。

井上さん

これ西日除けになってる。

大西さん

そうですそうです。西日除けになっていて。こっちは磨き壁になっていたりとかで、ちょっと閉塞感を軽減するような目的で磨き壁を。

ナレーション

さらに庭の向こうにある茶室へ

大西さん

普段は使わない大切な人だけをお招きするというお部屋になってます。ちょっと大きめの6畳の茶室になって、ちょっと上が高い最近の。

井上さん

これは海外の人もウエルカムな。

松井市長

今照明を撮影のために照明を入れてはりますけれど、本当はもっとほの暗いね。

大西さん

陽の光だけで基本的には人工灯を入れないのが茶室なのかなとは思います。



ナレーション

次に三つ目のトークテーマ

『結局京都を好きで嫌いで好き？』

海平アナ

あの松井市長もね、高校卒業まで京都で過ごされて、その後はね東京で長く過ごされていたわけですが、外から見られた京都、で、また京都に戻られて中から見た京都についていろいろ伺っていききたいなというふうに思うんです。

松井市長

僕、高校3年生のときは京都は嫌いで好きで嫌いだったんです。せやから京都出て東京行こうと。やっぱりそれこそ井上先輩の言葉を借りれば、田の字の洛中に住んで、ちょっとやっぱり空気ちょっと閉じた空気があって、もうちょっと空気の軽いところに行きたいなと。

行って実際、空気が軽い。でも空気が軽いけど、それは何ちゅうかな人と人との繋がりがだんだんわかってくるんですけど、なんか本当に色々刺激に満ちてるし個人は自由やし、誰も自分のことを知ってる人なんか町で会わないし、だから楽ですよ人の目を気にしないでいいとか言うのはね。

だけどなんかそれは年をとるにつれてそれが物足りなくなってくるというか、やっぱり人と人との繋がりとかがそれは場合によっては陰口叩かれるかもしれないけど、いろんなことを好き放題してたらね。

せやけどやっぱり人と人と繋がってどっか喫茶店行っても誰かその古い喫茶店行ったら常連さんが知ってる人いるとか、知ってる人が直接いなくても何か話をすると人と人の繋がりが必ずその共通の知人友人がいるみたいところで繋がってるというのが年

をとるにつれて、これはええなっってこういうのがいわゆるコミュニティかなと。そのコミュニティがある。

東京はやっぱりコミュニティって、もちろん下町の方であるところはあんだけど、一般的に言うと普通ね銀座とか渋谷とか六本木とか歩いてて知り合いと会うなんてことないし、店でもう誰も話してないし。

京都の喫茶店でもね昨日私も銭湯行ってきました まず男の人より女風呂の方から会話がたくさん来ましたが。で、番台のご主人に聞いたら、「いやいや皆さんは友達なんですかね？男風呂はあんまり会話がいないけど。女風呂は結構会話が向こうから聞こえてきますよね、今もなんか喋ってありますよね」って。あれはやっぱりね、みんな地域の人。知らんでもそこで話しはるんですって。そういうのがね残ってるというのがだんだん最初はそれは空気としてちょっと重かったけど、年をとるにつれてそれがだんだんこれの方がええなっという。

だから僕は嫌いで好きで嫌いから、好きで嫌いなどもあるけど好きって。最後はもうそういうのも含めておもしろいやんと。色々いろんな人が、いろんなこと言う。そのいけずな表現もあるかもしれんけど、それも含めてこれ京都の個性やし、さっき井上先輩が言っていたみたいに、そのことで本当に人を何か悪い質の差別をしてるわけじゃなくて、ある種のアんたはそれこそ阪神ファン巨人ファンがお互いいじり合ってるような感じでお互いがちょっと遊んでるじゃれてるってということも含めて面白いなど。

それは大阪と京都の関係も同じですよ。やっぱ関西はそうええなっという感じしますね

海平アナ

でも出られたからこそ、またそういったところに気づかれて。

松井市長

東京みたいなね、大都会でもう本当にもう、もう何千万の人があの街で行き交ってるような街に暮らしたから、この京都の140万の町のこのちょっと地方都市みたいなのと、でも都会でほんまの地方都市のみんなどこ行っても同じ人と会うとかいうようなこともないし、お互いがあんまり必要以上にディープに関わらない、お互いの都会人としてのある種の線引き、あんまり関わり過ぎたら重くなるっていうのをみんなわかってはるような気はしますけどね。

海平アナ

それは京都独自の強み良さに繋がるところでもありますか？

松井市長

それは僕はもう今は良さとしか思えないですよ。正直、本当に。

井上さん

私は京都のカルチャーを作ってるのはやっぱり長い老舗だと思います。それを感じたエピソードを1つ言うんですが。知人の写真家が二条城で個展を開いたんですよ。二条城が借りられるんだから立派な写真展だったんですよ。招かれたテーブルスピーチのあるお1人がその写真家に愚痴をこぼさした。テーブルスピーチで「君は何でこんなところを選んだんだ。この城のおかげで我が家は立ち退きをさせられた」つまり由緒自慢ですよ。

大西さん

なるほど。

井上さん

こういう人たちがやっぱり文化を支えてはるんやと思う。私ね、松井さんの前でこれも言いにくいけど。

大西さん

でもいうんですね。

松井市長

言うてください。

井上さん

京都を考えるようなシンポジウム。私、パネラーだったんですよ。会場からのご意見を伺おうということで、お1人が手を挙げて「私なんかこの町でたかが200年ですが」と前置きしをして喋られたんですよ。200年ぐらいでは老舗と言えない町なんだなと。それは歴史を大事にするっていう、歴史を大事にすればおのずとそうになっていくし、それは私にはなかなか関われないところだなと思います。

松井市長

関わってはりますよね、ネタにして。

井上さん

歴史研究とかそういう意味では関わるんだけど、何て言うのかな。こういう歴史を持ってある老舗は大変だと思うんですよ。例えば家のしきたりが300年やかましい親戚、300年のお得意さんってもう多分ね老舗を継いだ人はうんざりするような部分もあると思うんですよ。

こういう人に例えば他地方のメディアが、「京都の伝統って素晴らしいですね」と言ったときに、老舗の人たちは「お前らに何がわかるんや」という思いを

込めながら多分喋ってはると思う。

その思いがやや度のすぎるいけず口に繋がることはありうると思います。で、私は憶測ですよ。市長がお若い頃に 京都を脱出されたというのも旅館京都でよく聞くんですよ。例えばね、東京で女優さんになってはる人から聞いたことがあります。私は嫌で逃げたと今でも正月に帰ると妹からなじられる。「姉ちゃん好きなことやってええな」っていう。

これね、跡継ぎの跡継ぎの譲り合い問題譲り合いとつか、もう押し付け合い問題とつかのがある。

いやちょっと何かいけない扉開いてしまう

松井市長

いやいやいやいや。私はそんなことはないですけど、はい。そういう人もやるかもしれません。

井上さん

弟さんとは和解してらっしゃる？

松井市長

私は兄貴がいた。

井上さん

お兄さん。

松井市長

兄貴は跡取りで、私はもうそうじゃない。好きにやりなさいっていうところやったんで、別にそれは嫌でとかいうことは全く。

井上さん

わかりました、わかりました。でもお兄さんのお辛さみたいなものは？

松井市長

それはあったかもしれませんが、ひょっとしたらね私との関係でね。すごくかわいがってくれた兄貴でしたけど、やっぱり立場の違いみたいなものがあるということは常々言っていましたね。うちはそんな全然老舗やないし。

海平アナ

本当に大変なことでもありながら、それはでも歴史の重み強みにもなってるわけですね。

井上さん

だから私はかなんなと思うところはあるんやけれども、京都の文化を受け継いでらっしゃるのはそういう方々やから。

松井市長

お寺さんなんかもまさにそう。

井上さん

お寺さんもそうです。

松井市長

老舗というようなものところよりも、さらに古いところが多いですね。

海平アナ

大西さんはその京都の独自の強み良さって、どういうところだと感じられますか？

大西さん

そうですね。私も同じく大学卒業してから普通に会社員、転勤族の会社員をしてるんですけど、京都の会社就職しようかなと思ったんですけど、大学るとき飲み歩いてるときにちょっと朝帰ってですね。寝てたら、うちの母が「あんた昨日先斗町ですごい飲み方してたらしいね」みたいな、どこから聞いたそれ？みたいな情報で怒られてしまったことが結構多々あって。どこで見てはるかかわからへんけど、うちの母に心配して連絡が来るみたいな。この街嫌やわと思って出たんですけど、でも実際他の街に行って京都帰ってきてこういう商売して子供を育ててると京都ね、やっぱりいい街だなと思います。

親の立場になってやっぱそうやって教えてくれる人も嬉しいですし、やっぱり文化のアクセスっていうのがすごくね、お能だとかほんと東京とかで見に行くことはできますけど、子供たちが実際にワークショップしてとかそういうのができる街って多分ここだけだと思うんですよね。

そういうアクセスの良さ自分が何かできる伝統文化に対して何かね、ワークショップなり何なりで体験ができるみたいなですね、町って本当に唯一無二京都だなっていうふうに思うので、あのときはすごい母にははいなんか嫌だな、この街飲んでるところもばれんのか親にとって思ってたけど、それはそれでいい街だなというふうに思ってますし、子育てという目線でもいい街だなというふうに思いますけどね。

松井市長

ほんまになんか、小学校の頃とかねなんか子供喧嘩して、なんかもう「喧嘩したらしいな」とかいう話をなんか知らんけど親は知ってるんですよ。「いやなんで」とか言ったら「いや顔に書いてある」とか、わけのわからんこと言うんですよ。おそらく親同士のネットワークですぐそういう連絡がね。僕らはもう電話は普及してたから、その電話とかでパパッと話が伝わってるっていうか。どこで誰がどんな公園で何か揉め事

があっついじめた、泣かした、泣かされたみたいな話はパーっと親は知ってるし。みんな順繰りに雨が降ったらんか知らんけど友達の家を順繰りに回っておやつもらってみたいなそういうのもありましたよね。

それはやっぱりええことやと思いますよ。当時はそれそういう関係の場合によっては、ちょっと重苦しいと思った時期もあったかもしれんけど。

海平アナ

では今、結局ね、皆さん京都が好きなお三方が感じられている課題も含めて、今後京都をどういうふうにしていきたい、こんな良さを伸ばしていきたいなっていう思われるところも伺いたいと思うんですが。大西さんから。

大西さん

いやそうですね、いろいろね、課題と言われるものたくさんあるかと思うんですけど。私は本当にやっぱりこの伝統の世界に身を置いている、伝統文化とか伝統産業の世界に身を置いているので。

やっぱりもうちょっとなんかね、京都の人って自分の持ってる技術とかそんなにすごい特に職人さんとかは「いやいやそんな」とか言はる結構すごい技術を持ってる、それをでもなかなか外に出したりとか、ちゃんとうまく PR できてないっていう現状があるので、そういうところで少しずつ他の人が入っていただいたりとか、ちゃんとこの技術の良さとか、伝統の美しさみたいなのがちゃんと国内だけじゃなく海外にも発信できるようにしっかりとそれは全体でやっていかな伝統産業とか伝統文化全体でやっていけないといけないことだと思うんですけど。

やっぱりそういうところが、まだちょっとうちの業界は足りてないかなっていうふうに思うので、私は伝統という観点ではそういうふうに国内外の発信でちゃんと良いものを良いと知ってもらうような努力をするというのが、はい、まともな回答です。

海平アナ

市長、どのように感じられましたでしょうか？

松井市長

私の X にね、固定メッセージを作ってるんですけど。私は、ええ喫茶店でもねいいバーでも小料理屋さんでも小物屋さんでも映画館でも銭湯でもね、ここはもう自分が居心地がいいなと思ったらそこにちゃんと足を運んでお客さんになって、自分がこの人は連れて行きたいなと思う人をそこに連れていってそれが続くようなものが、本当の常連の文化やし、その常連の連なりみたいなものがその町の文化の力だと思ってるんです。真面目な話。

なんで、そういう文化を続けたいと思いますね。だから「ええな」と思ってるところに自分この人苦手やなっていう人はあんまり連れて行かない方がいいし、そういうお客さんがあってのお店なんでお店の人も「いやちょっとここは今日予約でいっぱいです」って言って断らはる人いはります。別に一見さんお断りとかいうんじゃないでね。それは何かっていうとこの空間を大切にしてくれる常連を大切にするようなお店が好きやし、それが私は京都の老舗が繋がってるってのはそういうことじゃないかな。

これを排外的になっちはいけないやけど、そういう文化、やはり常連で何度も何度も足を運んでくれる人が心地よくおもてなしができて、心地よく会話できてご飯食べられたりお酒一杯飲めたり、そういう配慮がある街をこれ続けていきたい。

自分が好きなのは自分が足を運ぶできるだけ。だからもうコロナの時期なんて本当に僕はつらい、この京都の町が死んでしまうんじゃないかと思って今それがようやく息を吹き返してるっていうのはありがたいんで。ただたくさんのお客さんを迎えなにかので、そこで今井上先輩が言わはった塩梅をね、どうつけていくか。

その京都の良さは残しつつも、せやけどそれが非常に排除的である人たちから見て、それがすごい不快になってしまったらさっき言ったような京都の文化そのものが壊れてしまうんで、そうならないようなところで京都らしさをどう残すかこれ難しいとこですね。

行政はそういうものを残せるような何かちょっと下支えができるような政策が打てたらいいかなと思いますね。頑張って銭湯とか応援したいと僕は思ってるんです。

海平アナ

井上さんはいかがでしょうか？

井上さん

好きで嫌いっていうことを言われるとね、多分私にとっても一番好きなのは家族で、一番嫌やなと思うのも家族なんです。それはやっぱり近い人に対して、どうしてもそう思うんじゃないかな。だから特に京都人がということではなく、どの街に住んでる方でも好きで嫌いっていう部分を持ちながら暮らしてらっしゃるんだと思います。

この街をどうしたらいいかということですが、いけずに限定して喋ります。先ほどアフリカから来られた人が、「いつも楽しそうですね」がやかましいという意味だとわからずに、ややつらい目に遭わはった話をしました。これは国際化を迎えたときに変えた方がいいんじゃないかなと一方で思います。

ただ、別のヨーロッパの人に言われました。「井上さんは、ひょっとしたら西洋人のことをみんな自己主張

がはっきりしてると思っていませんか？そんなことはない。西洋にも引っ込み思案で、例えば部下を怒るときによう怒らん人がいる」と。「そういう人は京都へ来たときにほっとする。ここでは『君時間にルーズなのは改めたまえ』と言わずに『ええ時計持ってるね』でいける。これは自分のような人間には居心地がいい」と。そうすると世界中の心のややひ弱な人がこの街に集って、京都のいけずという社交を維持できるっていう未来像も考えられる。

どっちがいいのか私はわかりませんが、何かこれは行政がどうこうしてどうこうなる問題ではないですし、京都がどちらの道をたどるのかなというのは楽しみですねというぐらい。

海外から来られた方がこの街へ馴染めるように、女将のところでトレーニングの研修を。

大西さん

いけずトレーニング。

松井市長

いけずトレーニング！

大西さん

いいですね、ちょっとホームステイしてもらって。

松井市長

ほんまはええ人やのに、ほんまはええ人やのに。ほんまは京都が好きやのについていう。

大西さん

いいですね、こういうのが文化だよと。でもイギリスとかにも結構そういう結構いけず文化とかがあられるしくて。どうでもいいカップに紅茶をたくさん入れて適当に回すとそれはもう帰ってくださいっていう意味になったりとかね。京都だけじゃなくいろんな土地にあると思うので。

井上さん

ロンドンもそういう街なんですよね。

大西さん

ロンドンとかね、そうやと思います。特にね、ロンドンは言われますよね。そういうのも私達知りたいなと思って。海外の人と交流のなかで「どんないけずおますの？あなたのお国は？」やりたい。

井上さん

世界いけず検討会みたいなね。京都市主催でね。

大西さん

市主催ですか。

松井市長

まあ市主催はだめ、市後援くらいで。



ナレーション

大いに盛り上がった「京都愛」あふれるトーク
そろそろ時間となりました…

海平アナ

今日のこの時間は、井上さんはいかがだったでしょう
か？

井上さん

いやこんな言い方も失礼ですが、存外楽しく過ごさ
せていただきました。

松井市長

どんな思いで来はったんですか。

井上さん

ちょっとややビクビクしながら来たんです。

海平アナ

楽しい時間ということで。

井上さん

はい。

松井市長

もう念押しせんでもよろしい。

海平アナ

大西さんはいかがでしたか？

大西さん

そうですね。私も実は今日井上先生を家の前で待つ
てたんですよ、お待ちしてたんです。もうねどっちか
ら来はるかわからんし、もう京阪から来はんのかJRか
ら来はんのかもドキドキしながらちょっと待ってて、
昨日も眠れてないんですけれども、私も。

今日お会いできてすごく嬉しかったですし、何か夢
ができましたね。世界のいけずを検討しようという会
をぜひ人生の目標にして、いけず女将としての顔を。

松井市長

いけず選手権！

大西さん

いいですね、いけずオリンピック。4年に一度やり
ましようかという、はい、夢もできたので良かったな
と思います。ありがとうございます。

海平アナ

それでは最後に松井市長、いかがでしたでしょう
か？

松井市長

いっぱいカット映像があったかもしれませんがけれ
ど、そのカット映像だけまとめてまた見たいという気
がするぐらい面白い話でしたけど、でもなんか京都の
文化の本質を、毒舌の中にも優しさを持って描き出し
ていただいたんではないかなと思って心から感謝申
し上げます。ありがとうございました。

海平アナ

皆様本当にありがとうございました。